

文化財だより 第165号

磐田市教育委員会教育部文化財課 平成30年12月1日発行

- 寺谷用水
～天竜川下流域の景観を作り出した農業用水～P1～2
- 磐田の道標（第2回/全2回）…………… P3
- 開催中 歴史文書館 常設展
歴史文書館の紹介と過去の企画展…………… P4
- コラム『ゆかりの地を訪ねてⅡ』木村哲朗 …… P4

磐田市歴史文書館企画展を開催します



寺谷用水

～天竜川下流域の景観を作り出した農業用水～
平成31年1月15日(火)～2月28日(木)



天竜川左岸（東名高速道路以北、南から撮影）

寺谷地区を流れる寺谷用水

- 休館日 土・日・祝日 入館無料
- 展示時間 9:00～17:00
(入場は16:30まで)
- 会場 磐田市歴史文書館展示室
(磐田市岡729-1、竜洋支所2階)
- 問合せ先 磐田市歴史文書館
TEL:0538-66-9112
FAX:0538-66-9722

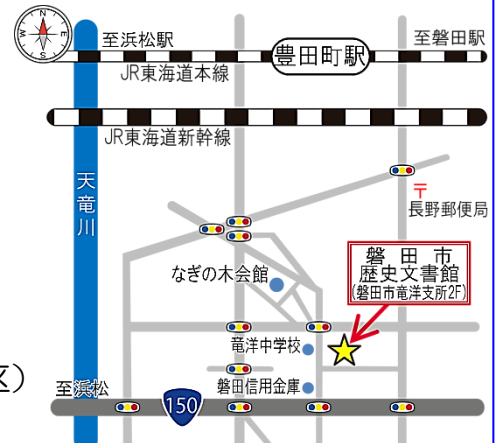
天竜川下流域、磐田市の西側を南北に貫く寺谷用水。水田を天竜川の水で潤すために開削された農業用水である寺谷用水が果たした役割や歴史を、古文書や絵図、写真などから探ります。

企画展歴史学習会

シンポジウム「寺谷用水の歴史と今」

- 日時 平成31年2月9日(土) 13:30～
- 場所 磐田市歴史文書館 2階大会議室
- 申込不要・聴講無料
- 出演 司会：杉野徹氏（磐田古文書会代表）
パネリスト：藤田佳久氏（愛知大学名誉教授）
池田藤平氏（寺谷用水土地改良区）
青島一彦氏（磐田用水東部土地改良区）

※当日は終日展示をご覧いただけます。

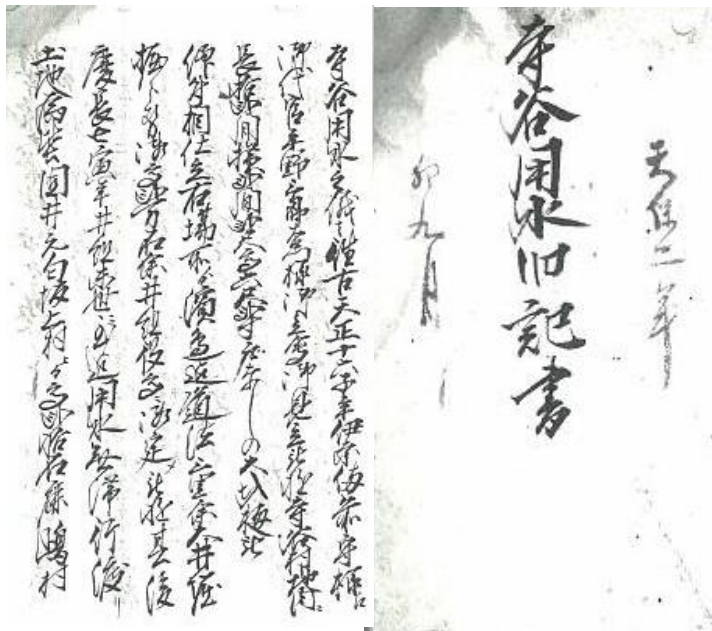


みどころ 1 寺谷用水の創設

寺谷用水は、天正 16 年（1588）天竜川左岸を流れる小さな支流を整備し、寺谷村（現磐田市寺谷）から遠州灘に近い浜部村（現磐田市浜部）までの約 12km の間を流れる農業用水として作られ、天正 18 年（1590）に完成したと伝えられています。

寺谷用水の創設、管理の歴史を天保 2 年（1831）に書かれた「寺谷用水旧記書」から紐解きます。

渥美國太郎家文書「寺谷用水旧記書」
（天保 2 年／1831）



みどころ 2 寺谷用水を描いた絵図

江戸時代に描かれた寺谷用水の絵画が今も残されています。

文久 3 年（1863）に描かれた右の絵図は、川筋や道筋、寺社、集落、用水など、江戸時代の天竜側左岸の様子が見事に描かれ、その中にくっきりと寺谷用水の流れが見えます。

この絵図をはじめ、寺谷用水土地改良区所蔵の絵図など用水の水管理の状況が把握できる精巧な絵図を展示します。ぜひ、会場でじっくりとご覧ください。

文久 3 年（1863）に一言御役所に出された
匂坂中村（現磐田市匂坂中）の絵図《部分》
（中央が寺谷用水）



みどころ 3 現在の寺谷用水



寺谷用水の利をえる匂坂の田植え風景

現在、寺谷用水は、寺谷用水土地改良区を中心として用水管理を組織的に行っています。4月の初めに総会が開催され、4月下旬に通水式を行い、1年の用水管理が始まります。

天竜川下流域においては 16 世紀に出来たといわれる寺谷用水から始まり、明治以降、社山用水、磐田用水が整備され、天竜川右岸では浜名用水が整備されていきました。天竜川下流域の水利システムは、寺谷用水を中核として今も私たちの生活には欠かせないものになっています。現在の寺谷用水の様子を写真を中心に紹介します。

磐田の道標

(第2回/全2回)



路傍にひっそりとたたずむ石の道標にスポットをあてるこの企画、2回目は「青年団」をキーワードにして見てみましょう。



なぜこんなにたくさん？地区に偏った道標

市内の道標を見てみると、西貝地区、大藤地区、豊岡東地区など特定の地区に密集していることがわかります。ひとつもない地区もたくさんあるというのに、これはどうしたことでしょう。

西貝地区には6基の道標がありますが、どう考えてもそんなに道案内をしなくてはいけないように思えません。

西貝地区のこれらの道標にはいくつかの特徴が共通しています。花崗岩で造られ、文字の彫りが浅くて読みづらい、設立者や年代がわかるものは〇〇青年団(会)とあり、年代は大正時代から昭和初期のものが多いようです。

このことから、当時の政府が主導していた「地方改良運動※」の一環でこうした道標が造られたのではないかと想像されます。

※地方改良運動…日露戦争後に疲弊した地方自治体を建て直すために政府が提唱した運動。税の滞納整理、青年団の組織化や神社の統合、農事教育・青年教育などが行われた。敷地村は優良農村として明治44年に内務大臣の表彰を受けている。

みなさんも、路傍にたたずむ道標を見つけたら、当時の人々に思いをはせてみてはいかがでしょうか。



①
西貝地内
右東海道
左西貝塚ニ至ル



②
西貝地内
右東海道向笠村
左西貝塚



③
大平地内
右虫生百古里光明山
秋葉山道
左里道



④
虫生地内
右一宮 森町
左山道

開催中

歴史文書館 常設展

歴史文書館の紹介と過去の企画展 ～明治150年、遠州の俳諧、第28番見付宿～

平成30年4月に開館から丸10年が経過した静岡県唯一の公文書館、磐田市歴史文書館を改めてご紹介します。また、平成29年と今年の夏に開催した企画展の一部を再展示しています。ぜひ、お越しください。

開催中～平成30年12月14日まで

■休館日 土・日・祝日 **入館無料**

■展示時間 9:00～17:00
(入場は16:30まで)

■会場 磐田市歴史文書館展示室
(磐田市岡729-1、竜洋支所2階)

■問合せ先 磐田市歴史文書館
TEL:0538-66-9112
FAX:0538-66-9722

展示内容の一部をご紹介します



明治150年を特集した展示からは、五俵の掲示(※)の解説、郵便制度についてご紹介！明治時代の切手も展示しています。

(※)1868年に明治政府が公布した立札

遠州の俳諧を採り上げた展示からは、見付と関係深い俳人などを紹介しています。



職員リレー コラム

ゆかりの地を訪ねてII

木村 哲朗

旧赤松家記念館展示の年表に【赤松家は、中世播磨^{はりまのくに}磨国^{のりむら}の豪族・赤松則村(法名：円心^{えんしん})の後裔^{こうえい}】とある。その赤松氏一族発祥の地が「佐用荘赤松村」(現：兵庫県赤穂郡上郡町・赤松地区)。

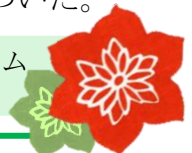
姫路駅前からレンタカーで約1時間。宝林寺境内にある「円心館」に到着。館を管理するご住職が、円心像等の展示物や赤松氏について説明をしてくださる。「地元では今でも親しみを込めて『円心さん』と呼んでいるんですよ」とにこやかに話される。

町の歴史を表すキャラクターが「円心くん」で、最寄りの駅は「河野原円心駅^{こうのほら}」。町の特産物はモロヘイヤの粉末を練りこんだうどん「円心モロどん」。「円心」が地元の方にとって身近であることを実感する。

次に『姫路の小京都』といわれる網干にある「本柳寺^{ほんりゅうじ}」(寛正2年(1461)開基^{かんしょう})に向けて車を走らせる。ここには赤松則良^{のりよし}の祖父、良則^{よしのり}のお墓がある。墓地まで案内をしていただき、静かに手を合わせる。帰り際「暑い中、遠方から・・・、これをどうぞ」と、地元出版の書籍『網干を歩く』とペットボトルの経口補水液をいただく。

青春18きっぷの旅の最後の1日、心地よい疲れと優しい気持ちで帰路についた。

前回の『ゆかりの地を訪ねて』は、文化財だより第140号に掲載しています。市ホームページ、または文化財だより合冊版(第101号～第150号)でお読みいただけます。



編集後記
いつの間にか今年も残り少なくなりました。今年も文化財だよりをご愛読いただきありがとうございました。来年もよろしくお願ひいたします。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699



©磐田市

◆WEB版は市HPから閲覧できます。 **磐田市 文化財だより** 検索